

《《《 ニュースファイル 》》》

公開市民講座始まる
DXの活用事例など学ぶ

秋田職能短大

大館市の秋田職業能力開発短期大学校（中村雅英校長）で3日、本年度の大学校公開市民講座が始まった。全3回で、初回はデジタルトランスフォーメーション（DX）をテーマに、市民6人がDXの活用事例や関連するデジタル技術に理解を深めた＝写真。

同校の主催。地域住民に短大を身近に感じてもらおうと毎年開催している。毎回テーマを変え、講師陣が専門分野について講義する。

3日は松田晃太郎講師が「DXと関連技術」と題して講話。はじめに世界初の大型コンピューターの誕生からスマートフォンの普及、人工知能（AI）の進化に至るまで、デジタル化の歩みを紹介した。

AIの発展については1950年代の第1次、80年代の第2次、2010年代の第3次とこれまで3度のブームがあったと説明し、「ここまで30年おきにブームが到来していることから、4度目は2040年ごろになるかもしれない」と予想した。

その後、DXの種類や事例、関連するデジタル技術について説明があったほか、IoT機器のプログラミング体験も行われた。

参加者は真剣な表情で話に聞き入っていた。

講座は7、8日にも開かれる。

